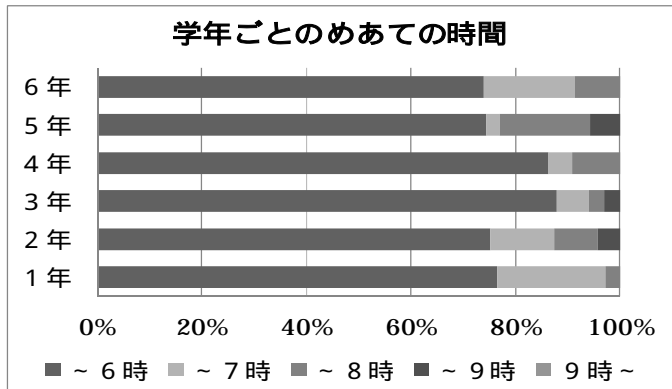


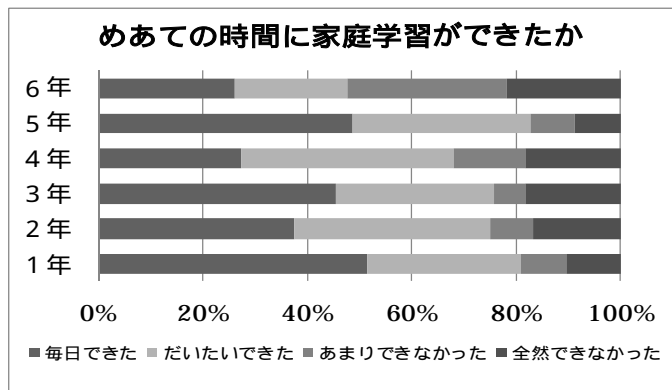
家庭学習強調週間を終えて

11月16日(水)から22日(火)までの間を中学校のテスト週間にあわせて「家庭学習強調週間」として、紫雲寺地区の小中学校4校で共通して取り組んできました。当校では、生活リズム(睡眠時間の確保)やメディアコントロール(テレビとゲームの時間の制限)のための「げんきアップ週間」の取組と連携して行いました。その結果について、振り返ってみます。

右のグラフは、今回の強調週間でめあてとして掲げた家庭学習の時間(何時間までにするか)を、時間帯ごとにまとめたものです。4、5、6年生で「～8時」にめあてを設定した児童の割合が他学年よりも多めになっています。上学年は帰宅時刻が遅くなるため、生活時間も遅くなっているのかもしれませんが、また、いくつかの学年で「～9時」にめあてを設定した児童が少数ではありましたがいました。しかし、どの学年でも「～6時」とした児童が70%をこえています。全校でも約80%の児童が6時までの時間に学習を済ませることをめあてとしていました。つまり、大多数が、生活リズムを整えるために早めに学習を済ませようとする意識をもつことができたといえます。



では強調週間5日間の取組状況はどうだったでしょうか。(できた)の日数が5を「毎日できた」、3～4を「だいたいできた」、1～2を「あまりできなかった」、0を「全然できなかった」として、めあての達成度を見たものが、右のグラフです。「毎日できた」「だいたいできた」をあわせて見ると、学年が上がるにつれて少なくなっている傾向が見られます。6年生では約50%です。つまり、早めに学習を済ませるとよいことは分かっていても、その通り行動できないという実態がうかがえます。それでも、全校の42%の児童が「毎日できた」という結果が得られています。



さて、家庭学習の取り組み方と大きく関係しているといわれるテレビやゲームの時間についても見てみましょう。めあてとした「テレビやゲームの約束」は家庭ごとに異なるものの、大きく分けると、「時間を決めて」が77%で大多数で、「時刻を決めて」5%、「学習が終わってから」2%、「平日はやらない」5%、その他となっていました。その約束が守れたかどうかについて表したものが、上のグラフです。「毎日できた」「だいたいできた」をあわせて見ると、やはり、学年が上がるにつれて少なくなる傾向が見られます。1年生の達成率が最も低い結果となりました。また、「毎日できた」児童の割合は学年に関係なく同じくらいで、全校では37%でした。

